

# 地域包括ケアシステムに向けた地域包括支援センターの地域支援の取り組み

- 平成23年度 認知症サポーター200名養成を目標に取り組み、達成。
- 平成24年度 養成した認知症サポーターの次のステップとして、新しい事業への取り組み。  
(事業名:わっ!わっ!わっ!倶楽部)
- 平成25年度 地域包括支援センター独自の事業から地域へおろし、地域と役割分担をしながら連動して提供できるシステムの構築をめざして。

スタート

活動

未来へ

## 包括から発信

### 1. 参加者へ働きかける

- ・認知症予防、閉じこもり予防
- ・歩く事を習慣にする
- ・みんなですること脱三日坊主

### 2. 地域へ働きかける

- ・人材発掘
- ・問題提起
- ・ニーズ把握

- ・集まることが楽しみに
- ・一緒に旅行へいくことで助け合い、協力
- ・仲間意識へと変化

- ・ファシリテーター
- ・アドバイザー  
(ふれあいハートポイント)

- ・包括事業から地域活動補助金事業へ

## 展開

ネットワーク  
点から面で地域を支える

- ・1つ目のグループと2つ目のグループの交流
- ・サポーターとして支える

認知症カフェへ  
つないでいく

<認知症サポーターへ向けての活動風景>



<わっ!わっ!わっ!倶楽部活動風景>



地域支援

◆ 人材発掘

コーディネーター

後方支援

◆ 教室、  
サロン運営支援

ネットワークづくり

地域包括支援センター

モデルケース

ニーズ把握

◆ 自治会、民生委員、  
老人会、住民

◆ わっ!わっ!わっ!  
倶楽部

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例 (様式)

①市区町村名	相模原市中央区小山
②人口 (※1)	20,176名 (平成25年4月1日現在) (17.4%)
③高齢化率 (※1) (65歳以上、75歳以上それぞれについて記載)	65歳以上 2,104名 (10.4%) 75歳以上 1,408名 (7.0%)
① 取組の概要	「認知症を予防する」を目的とした、『わっ!わっ!わっ!倶楽部』では「地域型認知症予防プログラム」をアレンジし、参加者が自主的に楽しみながら活動に参加することが、認知症の予防に効果的という見地からウォーキングと旅行を行います。
⑤取組の特徴	認知症サポーターの勉強をした方が、認知症予防に取り組めるよう『わっ!わっ!わっ!倶楽部』が小山地域包括支援センターの新規事業として発足しました。次年度は相模原市の補助金事業として引き継がれ、地域の方が主体となって活動しています。
⑥開始年度	平成23年度～
⑦取組のこれまでの経緯	平成23年度：認知症サポーター200名養成を目標に取り組み、達成。 平成24年度：養成した認知症サポーターの次のステップとして、新しい事業への取り組み。(事業名：わっ!わっ!わっ!倶楽部) 平成25年度：地域包括支援センター独自の事業から地域へおろし、地域と役割分担をしながら連動して提供できるシステムの構築をめざして。
⑧主な利用者と人数	認知症サポーター200名、イベント参加者50名、わっ!わっ!わっ!倶楽部の参加者15名
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	小山地域包括支援センター
⑩市区町村の関与(支援等)(※2)	24年度より、アドバイザーに対して相模原市で行っている『ふれあいハートポイント』を利用。
⑪国・都道府県の関与(支援等)(※3)	特になし
⑫取組の課題	地域包括ケアシステムを構築するにあたり、介護保険サービスに頼らない各サービスと地域住民のニーズをつなぐコーディネート機能の充実。
⑬今後の取組予定	介護予防に向けた取り組み。 「認知症カフェ」に向けた取り組み。
⑭その他	
⑮担当部署及び連絡先	小山地域包括支援センター 電話 042 (752) 1321

- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を( )内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

# (ア)しろやま声かけネットワークの取組み(相模原市城山地域包括支援センター)

- 要援護高齢者の早期支援のため、地域の高齢者の見守り活動を実施してきたが、早期把握に繋がらないケースが少なくなかった。平成19年度から地域ケア会議において、地域の高齢者の状況把握・課題の確認・個人情報の取り扱いの学習会や対策の検討を実施する中で、「見守り」だけではなく、「声かけ」が必要となった。
- 平成21年度に『声かけネットワーク』を立上げ、「ステッカー」や「のぼり旗」を作成。関係機関が協力し、地域に周知。
- 結果、支援が必要な人が、早期に地域包括支援センターなど、必要なところに繋がるようになった。

城山地域ケア会議  
(地域の課題の検討)



城山地域ケア会議  
(見守り活動)



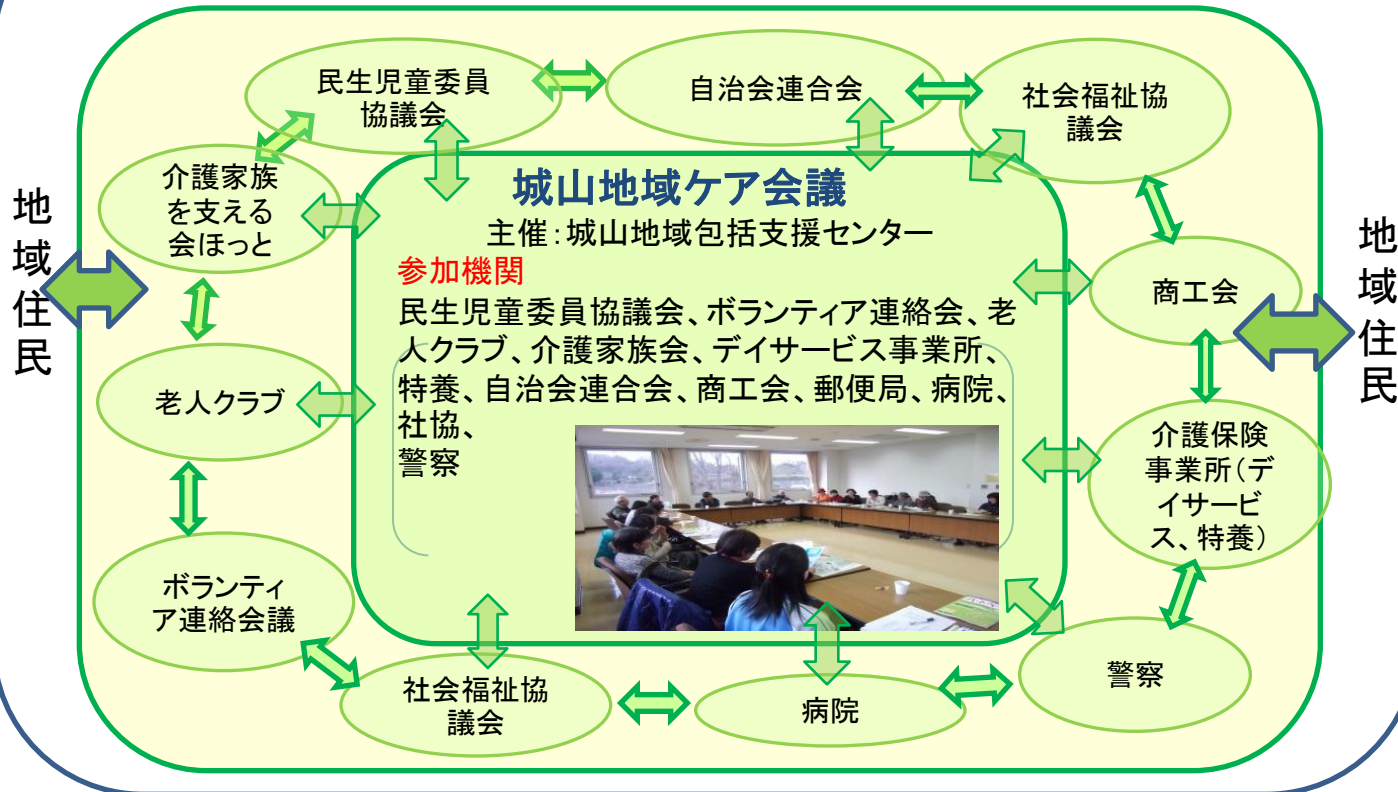
城山地域ケア会議  
(再検討)



声かけネット  
ワークの立上げ



## しろやま声かけネットワーク



声かけネット  
ワークのステッカー、  
のぼり旗、チラシ  
を作成し、普及



要支援者の早期発見・早期対応が実現

## 地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①市区町村名	神奈川県相模原市緑区 城山地区
②人口（※1）	23,782人
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上：5,809人（24.4%） 75歳以上：2,092人（8.8%）
①取組の概要	城山の地域で、弱くなった高齢者の早期発見と、見守りを越えた直接的支援が実現されるように、住民間や機関で高齢者に声をかけ、必要な支援につなげる取り組みを実施。また、ステッカーを掲示することで、地域の高齢者に対する住民の支援、見守りの意識を高める。「声かけネットワーク」を実践している。
⑤取組の特徴	従来の「見守り」を地域住民や、商店などにもお願いしても、地域包括に声があがってくるのが遅れ、周囲の住民は、以前から生活困難を把握していてもよほど困ってからつながってくるのがほとんどだった。 声をかけながら、見守り、適切な機関につなぐことを住民に認識してもらうことで、少し弱った状態で近隣の方が声をかけ、介護予防の取り組みなどにつながって行く。また、非常に混乱した状態を避ける効果もある。
⑥開始年度	平成21年度
⑦取組のこれまでの経緯	平成19年に地域ケア会議を開始、年間3回会議開催し、その中で、地域の高齢者の状況確認、課題確認、個人情報取り扱いの勉強会実施、取り組み内容の検討を行い、平成21年度に正式決定し、ステッカーや広報紙へのPR、地域ケア会議参加団体への協力依頼などを実施。出張地域包括として地域のスーパーで広報活動など行った。
⑧主な利用者と人数	地域の全ての住民が対象だが、ステッカーは悪用される恐れがあるため、地域ケア会議参加団体の関係先に限定している。 ステッカーを見た住民から、地域包括に連絡が入る。
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	地域包括支援センターが主体となっている。参加団体は、自治会、老人会、商工会、警察、郵便局、消防、民生委員等
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	地域ケア会議に出席。広報紙の活用（回覧板）
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	県から講師派遣を受けた。
⑫取組の課題	声かけネットワークの周知と同時に、地域包括支援センターの周知もされてきていて、声もかけてくれているが、ごみ出しなどの介護保険で解決できない課題に対して、直接的支援ができないことがあり、民生委員さんが受け持ってくれていることがあるが、解決のしくみを作る必要がある。
⑬今後の取組予定	介護保険事業所、障害者支援事業所が地域に増えたため、分科会を開催し、事業者の地域貢献できる部分を探る。 また、地域を自治会単位ではなく、5分割程度にわけ、地域の実情を民生委員、社協と一緒に話し合いを行い、情報交換と取り組みの検討を行う。 更に、年3回の地域ケア会議において、今後形ある支援の方策を検討する。

⑭その他	本年も、声かけネットワークの啓発活動をすすめ、自分たちの地域情報誌「VIVAしろやま」でも宣伝する。
⑮担当部署及び連絡先	城山地域包括支援センター 042-783-0030

- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を( )内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。

# (イ) 藤野地域ケア会議(相模原市藤野地域包括支援センター)

- 藤野地域包括支援センターが主催する「藤野地域ケア会議」に、民生委員・社会福祉協議会等の関係団体・市職員が参加し、地域の課題や対策について検討。交通の便が悪い地域のため、引きこもり予防や見守りの対策が重要な意見が多かった。
- 藤野地域包括支援センターの職員が社会福祉協議会やまちづくり会議に委員として出席し、地域ケア会議から出された課題や必要な対策について、発信。見守りネットや集まり処の具体的な事業の立上げに繋がった。

